地方都市の現場から

新潟・石川　家庭教師のアズ　渡辺敏明

表日本と裏日本

新潟県と石川県は日本全体の中では裏日本と言われています。裏日本という言葉には何か寂しさを感じる響きがありますが、やはり冬場の厳しさを思うと、東京などの暖かい冬と比べ、妙に裏日本という言葉が似合ってしまいます。

同じ日本に住んでいるのに冬場は全く異なる姿の日本で暮らしているのです。そこに住む者にとっては「裏日本」という言葉は、なんだか日陰を歩く者のような気がしてあまり好きな言い方ではないと思っている方も多いのではないでしょうか。

ですから新潟や石川に住み家庭教師をしている私たちは子供達に「表日本の子供に負けないで！」といったような気持ちがあるのでしょう。

文化・経済・情報の格差

東京などの首都圏の同業の方々の話を聞くと小学生の頃からすでに、大学やその先をにらんで勉強している様子。あまりに意識が違うのではないかと感じます。仮に、将来、国全体に関与するような仕事に就くことを考えたとするとし、スタートが全く違うのです。同じ日本で生きていながら、情報や環境で全く違うのです。まさに冬場雪に覆われ曇ったどんよりした日の続く裏日本と暖かい表日本ほどの開きを感じます。

景気回復期間は戦後最大を更新したというようなニュースが最近ありました。これには「う～ん。ホント？」という印象が裏日本に住む人たちの印象のような気がします。地方はまだまだ景気が良くなった実感はとても乏しい…。この地方では「何でも東京に2～3年遅れてやってくる。」と言われます。すべては首都圏から動いて行くのでしょう。

それは仕方のないことなのでしょう。首都圏には人口が集中し、経済や文化や情報、全てが集中しています。だからといって裏日本に住む私たちが負ける訳にはいられません。ここで暮している私たちも、皆同じ日本人なのです。私たちの未来は日本に住む私たちが作り、背負っています。裏日本と呼ばれる地域からも未来を作り出す子供たちが沢山産まれ育っていきます。だからこそ表日本の情報速度や文化などに負けず大切に育てたい。。そんな思いで子供たちに勉強を教えています。

理解し考える力

このような流れもあり、長い間家庭教師の仕事を続けていく中で私たちが勉強を教えるテーマは「未来を作り出す子供たちを育てる！」事です。

さて、その子供たちの勉強。どうも、「作り出す」ために必要な力とかけ離れつつあるような気がしています。どんな風にかけ離れてきているのか。それは子供たちの学習が、「理解する勉強」から「覚える勉強」になっている印象があるからです。

日本の子供たちの学力が低下しているというようなことが新聞記事に乗っていましたが、「覚える力」はあまり低下が少ないようです。やはり「考える力」の低下が目立ちます。この2つの力のバランスがあまり良い方向へは進んでいないようなのです。自分自身の未来も、日本全体の未来も、過去に得た知識を応用させ、より良い方向へ発展進化させることで豊かになって行くものだと思います。そうした未来を作り出す力は、「理解し考える力」が育ってこそと思うのです。こうした幸せを作り出すため人間だけが備えた「理解し考える力」が、どうして育ちにくくなっているのでしょうか？

これは、どうやら「ゆとり改革」の影響が大きく関与しているようです。「ゆとり」は様々な知識人の批判を受け「学力重視」に戻りました。ですが、学校で勉強する時間数は改革前と変わっていません。そのためなのでしょう。理解する前に覚えて点数を取る。そんな学習をしている様子が見受けられます。そもそも、何のために勉強するのでしょうか。良い点を取り、どこかの中学や高校、そして大学に進むためでしょうか。進学先は人生の通過点でしかないはずです。進学も、その先の未来を自らの力で豊かにし幸せをつかむために学ぶ事が必要なはずです。

幸せをつかむ事が人間の究極の目標ではないかと思いますが、そのためには、様々な事を知り、しっかり物事を理解し、より良い選択肢を見つけ出したり作り出して行く事は、必要で大切な力ではないでしょうか。

誇りある文化のために

確かな情報や知識こそ学びを変え未来を変え、地方の姿も変えると思うのです。大切な勉強できる時期に確かな情報や知識を持ってもらいたい。知る事。そして理解して行く事。そうした力が育まれてこそ、現代が抱える様々な問題を解決し、より豊かな未来に向かって行けるのです。何事も遅れがちの裏日本も、誇りある文化のある地域に作り上げて行くのは、そうした力から作り出されるものだと思います。たくさんの子供たちに「理解」の大切さ、喜び、楽しさを私たちの教える勉強から感じて欲しい。小学から高校生。学年が進むほど、そうした勉強に取り組むための意義づけが大切になるようです。

勉強の意義を子供たちに実感してもらいたい。そして、新潟や石川の地方から立派な人材を育てよう。そのために必要なことはどんな事でもやって過ごす日々です。「新潟や石川住む子供たち、日本の子供たちガンバレ！」

30周年のプロ講師集団

ディック学園　赤嶺昭

昭和52年、プロの家庭教師による家庭教師派遣システムを考案し、本年で30周年を迎え、多くの生徒さんの指導をして参りました。プロ家庭教師は、社会人として、何よりもプロとしての自覚があります。私たちはプロ家庭教師の仕事を「教育サービス業」と捉え、「指導力」「マナー」はもとより、「安心感」「満足感」「信頼感」を最も大切にしています。そして21世紀の新しい職業にするべく、家庭教師を「パーソナチューター」、プロの専任教師を「プロチューター」、生徒さんを「パートナー」とし、新しい関係を築いています。“教えてやる”から「教えさせて頂く」。“師弟関係”から「協力関係」。“こもる授業”から「魅せる授業」へと脱皮する、新しい家庭教師スタイルを提案しています。

近年では、公立・私立高校・学習塾・予備校・専門学校や自治体などへもプロの講師を派遣しており、学力アップから受験対策、さらには地域の生涯学習までの幅広い分野に対応。委託先のニーズやレベル、目標に応じた適切なプロチューターの派遣を可能にしています。

また、インターネットの普及により、子供達の校外教育環境は大きく変わりつつあります。私どもが30年の年月をかけて蓄積した「プロ家庭教師」の授業をインターネットを通じて簡単に双方向で受講することが可能になりました。「学習塾等に通う子どもの安全対策」（保護者による送り迎え）・「学習塾講師の児童に対する暴力事件」など、安心して通塾させる事ができない社会環境になりつつある中で、インターネット家庭教師なら、ご自宅で安心して授業を受講できます。

私たちは人と人との心の通った学習指導により、夢をカタチにするプロフェッショナルな講師集団として、そのフィールドを拡げています。

これから21世紀に羽ばたく大切なお子様の教育は、是非プロ家庭教師のディック学園にお任せ下さい。

お子さんの才能を見出すチャンスを!!

慶応アシスト

子供を含め人間は、大小の差はもちろんありますが、それぞれの才能と可能性をもって生まれてきています。人間にとって「最高の幸せ」とは自己の生まれながらの才能と可能性を出し切ること」であろうと私は考えます。子供が才能を出し切るには、自分の才能がなんであるかを探し出すことから始めなくてはなりません。思い出せば私もさまざまな習い事を親から与えられました。

当時はもちろん「させられていた」ことが多かったと思います。自分で希望して通い始めたものもありますが、そろばん、柔道などから、学習塾はもちろん、進研ゼミや、英会話、記憶術など・・・。さまざまなものを習いました。しかし、その中で途中投げ出したもの、1～2年でやめたものもたくさんあります。というより、ほとんどが3年と続いていません。

ところが、後年になって、格闘家の方から貴重なお話を聞く機会があったり、アメリカ人の友人ができたときには、ああ、少しでもやったことが自分の栄養にはなった、やってよかったと思いましたし、習ったほとんどのことがムダではなかったと気づきました。

「やめよう」と思ったときに親が、「何でやめるの？」と聞いてきました。やめるための合理的な理由が無い場合そう簡単にやめさせてくれませんでした。今思えば飽きっぽい私でもそれなりに続けられたのはそのお陰だと思います。3級になるまでとか、目標をくれてそれに合わせていくことができました。「やめたい」と言いだしたときに、やめることをとめて欲しいと本音では思ったことも多かったものです。

めざましい業績をあげていて、親の英才教育で有名なイチロー選手、シューマッハーやモーツワルト、エジソンなどのかげに教育熱心だった親がいることで有名です。教育熱心な親の子供全員が成功するわけではないのですが、教育熱心だった人の中から大成功する人がでやすいのは真実です。また、なにも音楽の教育を受けていないのに、急にピアノの天才少年になったというは聞きません。

結局、子供（とくに小学生）は消極的にも積極的にも親が与えた教育やチャンスの中からしか、自分の才能を見出すことはできないからなのです。私たち慶応アシストとしては、子供の教育を真剣に考えるご父母様の力になりたいと考えています。親御さんといっしょに、お子さんの才能を見出すチャンスを広げていけるなら幸いに思います。

塾長よりご挨拶

慶応アシスト塾長　堀部丈太郎

私達は、慶応・早稲田・東京大学・上智大学・横浜国立大学の学生を中心とした現役大学生で運営している家庭教師グループです。「不登校13万人」・「学級崩壊」・「学生の学力低下」・「ゆとり教育」など、さまざまな現在の教育現状を踏まえた中での信頼される家庭教師を目指しています。

お子様の眠っている「やる気」・「可能性」を引き出し、個性を伸ばしてあげること、それを通して自分達もまた勉強していくことを目的に意欲的に活動してます。

ただし私達は、家庭教師が万能だとは考えていません。生徒一人一人理解度が違うため、一人一人に一番あった勉強法があるはずだと考えています。しかし、勉強に対する「やる気」そのものをなくしてしまっている子供達にきっかけを与えることができると考えています。自信を無くしてしまった子供達に、もう一度勉強の楽しさを教えてあげたい、頑張っている子供達にプラスアルファのアドバイスを贈りたい、そして目標を達成する喜びを体験して欲しい、これが私達の願いです。「学力を伸ばす」ことを通して子供達の大きな夢を与えることが慶応アシストの役割だと思っています。

私自身、エデュケーティングプランナーとして、生徒の将来まで考えたアドバイスをモットーとしております。可能な限りご家庭へのご連絡を私自信が行っています。皆さんのお悩み、例えば進路相談、学校の状況、受験状況など、私自身本当に細かいことまで熟知しています。出身も神奈川ですので、通常見えない志望校の素顔などまで把握しています。

14時～16時までの間がフリー相談タイムです。相談をご希望の方は、ファックスやメールでご連絡をいただければ、翌日以降に必ず対応させていただきます。どうぞ私を使ってください。慶応アシストにお申し込みいただいた方が私を利用しないのはもったいないです。

また、どうしても、当初の見込み通りに行かないこともあります。私達学習アドバイザーがお子様の勉強の問題点を探して、対策をしていますが、様々な要因によりずれが生じていくことがあります。それらに対しても対応していく事が私だけでなく、全てのスタッフ、慶応アシストの望みでもあります。

どうぞよろしくお願いいたします。

Y君と過した3ヶ月

家庭教師のアクセス　榎本勝仁

今回は直接指導した生徒の中で非常に印象に残っているうちの一人、Y君についてのお話を紹介します。

彼は3年前に、小5の5月から指導した生徒。当時のY君は日能研で1組と2組を行ったり来たりの成績で偏差値は40弱。そこで勉強習慣から立て直す必要があったので、一週間の予定を本人とお母さんと一緒に立てることにしました。

しかし、予定表は作ったもののなかなか予定通りにはいかない。そのため会うたびにチェックをはじめました。予定通りにできていない時、言い訳などをしたら問答無用で即座に厳しい言葉で詰めたため、Y君が涙を流したのは一度や二度だけではなかったはずです。あるときはお母さんと相談し、Y君には内緒で突然家庭訪問して強引に二時間休憩なしで勉強させることもありました。

その甲斐あってかその年の7月には偏差値50近くになり、志望校は「巣鴨」に決めた。本人、お母さんともに「ビシビシ厳しく鍛えてくれる学校がいい。」ということで選びました。志望校を決めてからは自らすすんで勉強するようになり厳しく詰められることは無くなりました。

ところが、7月の終わりに「来月、名古屋に引っ越すことになった。」と突然言い出した。「どうして？」「僕からは言えない。」せっかくやる気になったのにどうしたのだろう??

お母さんとも話したが、引っ越しの理由は語ってくれず。しかし、家庭の状況については、ある程度察しがついていた。（後に確認したら察したとおり両親の離婚によるものだった）

最後の指導日にY君が「先生、中学受験はできなくなったけど、名古屋に行ってからもがんばるから。向こうの進学校に行って、大学は東京の大学に来るから、その時は先生のところの家庭教師か塾で仕事させて。」と残し、引っ越していきました。

Y君と過したのは僅か3ヶ月でしたが私にとって忘れられない指導生活です。5年後、我々の家庭教師や塾講師として活躍してくれることを期待し、待っています。

家庭教師歳時記 ①

家庭教師・学参　森田守保

2006年の7月、ある若者が会社を訪ねてきた。10年ぶりくらいだろうか。しかし、すぐに誰かわかった。中学受験で所懸命頑張り、慶応、愛光、ラ・サール、など5連勝し慶応に入学。そのまま慶応義塾大学を卒業。中2の頃、一度彼の父と私の子と4人で船で釣りをしたことがある。それ以来だ。

かれは、三菱東京UFJ銀行に入社したが、自分で事業をしたいと思い半年で退社。その後東京と台湾で不動産関係の会社を立ち上げたそうだ。その関係で名古屋にも事務所をおきたいとのこと。若いということはすばらしいことだとつくづく感心した。

先日、彼の父にあった。苦労しているみたいだが傍らでやっていたアルバイトをやめたとのこと。「本業で食えるようになったのかな」とほっとしていたようだ。

私の勘だ。きっと彼なら成功する。

家庭教師派遣業協同組合設立に寄せて

岐阜県　家庭教師のアズ

家庭教師派遣業の業務内容は、依頼を頂いたご家庭の生徒さんに合った教師を紹介し、指導面や毎日の学習においてのサポートを継続的に行っていくことを旨とするものですが、昨今では、家庭教師派遣業者と偽って、高額な教材を売りつけられたり、突然、案内の電話をしてきて、断るとすごく嫌な対応をされた等、たくさんの苦情が寄せられています。

このような悪質行為を行う業者を監視し、業界の健全化を図るために家庭教師派遣業協同組合は設立されました。関東経済産業局の指導のもと、特定商取引法を遵守し、お客様が安心して家庭教師を依頼できる環境を整えています。

加えて、弊社、家庭教師のアズは、家庭教師派遣以外のボランティア活動にも参加し、チャイルドラインの支援を行っています。また、家庭教師にまつわるトラブルに対して、お客様の立場に立ってトラブルを迅速に解決できるように、随時、相談を受け付けております。

トラブル事例紹介 ①

苦情トラブル110番（愛知県岐阜県家庭教師協会主催）

ニセ学生が「死ね」を連発!!

某大学から苦情がきた。「最近中学生の親から苦情が来て大変なんです。なんとかなりませんか？」という。それによると、「○○大学の○○ですよ」という電話でしつこく勧誘し、業者名も名乗らず電話番号しか教えない。親が断ると電話口でなんども怒鳴るように「死ね」を連発するというんです。たまりかねてうちの大学に怒ってくる。調べてもその名前の学生はうちにいないんですよ。」それでそのときに言ったという電話番号を調べるとそれらしい業者が浮かび上がる。しかし、番号が少し違う。かけると誰も出ない。

また、複数の中学生の母親からも同様の苦情。「なんどもなんどもしつこいんですよ。同じ業者です。番号が同じですから・・・そのたびに断るんですがすごい罵声を浴びせるんですよ。」

ニセ学生が電話勧誘するのは家庭教師を偽り高額教材を販売する業者の代表的な手口です。電話で断ろうとしてもつながらないので業者は説明にきてしまいトラブルとなることも。この手の電話に注意しましょう。

ストレス・気質 を 数値で分析、診断！

子ども診断シリーズ　こころの健康診断　勉強のやり方診断

近年の過度の受験戦争に加え、いじめ・登校拒否など、子供を取り巻く環境は、大人の想像以上に複雑なものへと変化しています。まわりの大人が、もう少し早く気付いてあげていれば…。学力の教授のみでなく、『こころの教育』にも力を入れてかなければならないのではないでしょうか？

子供の教育カウンセリングで多数の実績をお持ちの教育臨床額博士、井上敏明教授の監修のもと、子供のストレスチェック『こころの健康診断』、子供の気質チェック『勉強のやり方診断』が開発されました。

新たな教育サービスとして是非ご利用ください！

子供診断シリーズの詳細は下記 HP で。
http://www.kids-dock.info

学援　学習塾・家庭教師の指導に役立つアイテム！
“他にない”“あれば助かる”をご用意します！

商品に関するお問い合わせは
075-241-4404／info@gaku-en.net
株式会社 学援　〒604-8174 京都市中京区室町通三条上るＪりんとう5F